

明治29年の第19回通常県会で30年度予算案が審議され、土浦分校費3,889円2銭・下妻分校費 3,096 円76銭を含む予算が議決された。分校開設は校舎新築を待たずに明治30年度の設置が決定しました。左の写真は茨城県尋常中学校土浦分校開校時、教室として使用された新治郡役所(現在の亀城公園内にあった。写真右手前には今でも公園のシンボルになっている本丸櫓門がみられる)です。



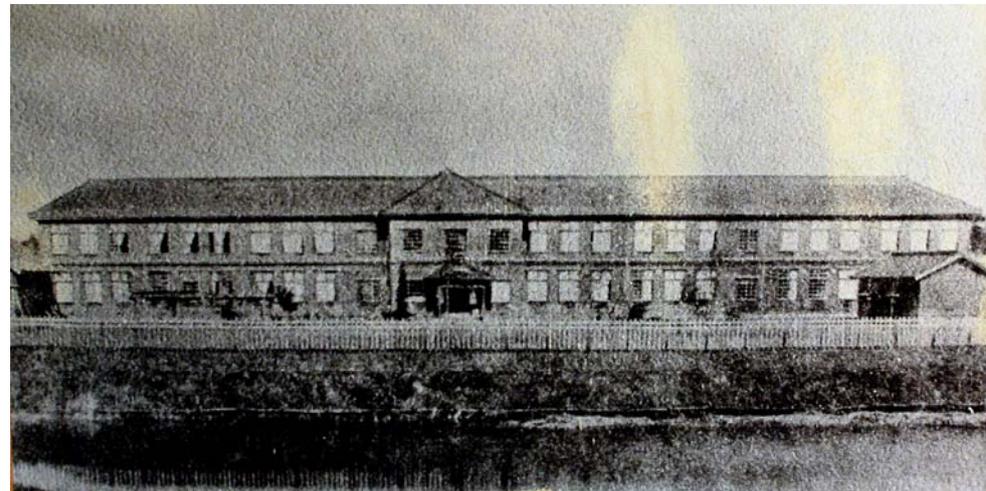
土浦分校の初年度経費 三、八八九円二銭

4月22日は、茨城県立土浦第一高等学校の創立記念日です。在校生諸君にとっては嬉しいプレゼントですね。特に新入生にとっては、いろいろな意味で格別かな？ 諸君のなかには、今年は、4月21日か5月2日だったらとか、いやそれよりも毎年連休の中の授業日にスライドできるといいな等等など思っている人もいるかも知れませんね。かく言う筆者もそんなことを考えたことがあります。最近では、学校や一般企業も創立・創業記念日を、必ずしも授業や事業の開始日としない例が多いようです。

土浦一高の創立記念日は、どんなかたちで制定されたのか？ それは、実に簡にして明瞭。明治30(1897)年4月22日、茨城県中学校土浦分校が新治郡役所楼上で授業を開始した日を根拠にしている。即ち、志願者193名から選抜した80名を第一回生として授業を始めた日である。三年後の33年3月には、文部省告示で、茨城県土浦中学校として独立が承認され、同年4月、法制上土浦中学校が誕生した。この年、第4回生を迎え、全生徒数は四百余名となった。その後、明治40(1907)年、幸津国太郎校長は、創立記念日を4月22日と定め、同年12月に開校十周年記念式典が挙行された。それは、創立以来の流浪の旅に終止符を打ち、明治37(1904)年、松並木が連なる陸前浜街道に沿った真鍋台の新校舎竣工3年目のことであった。

さて、母校の流浪の旅のことであるが、郡役所での授業は二カ月で終わり、その後は、土浦尋常小学校に間借りしたり、翌年4月には、2年生は内西町(現関東つくば銀行駐車場)の民家の仮校舎で、更に翌々年になると、一年甲乙両組は土浦尋常小学校女子部校舎に、丙組は郡役所で授業を受けるという状態であった。

左の写真は明治33年に完成した土浦中学校校舎。明治38年、中学校が真鍋台に移転した後は、土浦高等女学校校舎として、戦後は土浦第二高等学校の校舎として昭和44(1969)年に取り壊されるまでの65年間愛された校舎である。

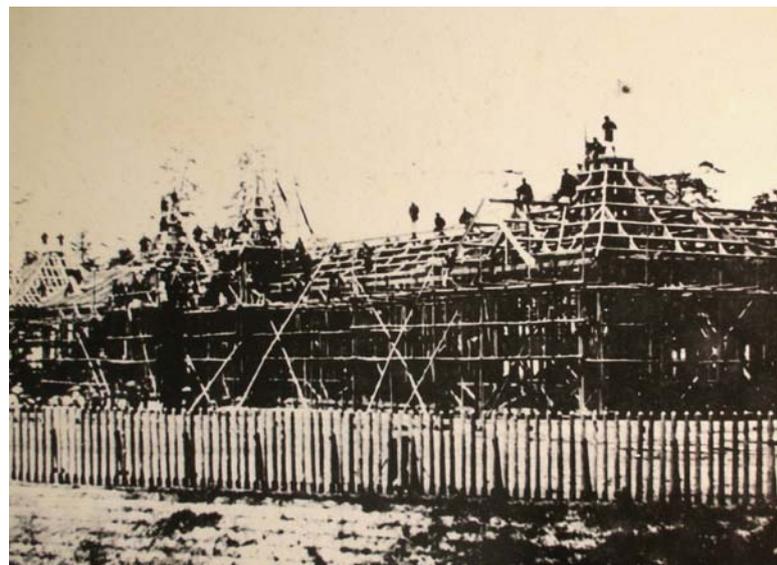


初代校長になった福山義春先生は 就任時、何歳だったでしょう？

該当するものを選んでください。

- ① 福田首相と同年齢
- ② 首相就任時の安倍前首相と同年齢
- ③ ヤンキースの松井選手と同年齢
- ④ ドジャース移籍時の野茂投手と同年齢
- ⑤ 金メダリスト荒川静香と同年齢

真鍋台新校舎上棟式(明治37年7月5日)



更に学年進行に伴う学級増によって転々と仮住まいを余儀なくされていた。やがて明治32(1899)年12月には、全生徒(1~3年生)が共に学べる洋風瓦葺二階建(バラック様式)の新校舎が立田町に完成し、安住の地を得た。しかし、折りしも土浦に高等女学校が設立されることになり、この校舎は女学校に引き継がれることになった。そのため、流浪の旅はいま暫く続くことになったのである。

教育に熱心であった当時の県知事は、県予算の6割程の巨費を投じ、真鍋台に今までとは趣を異にする中学校校舎を建設した。明治38(1905)年4月、さ迷える土浦中学校は、立田町から真鍋台に移転し、新たな歩みを始めたのである。ここに『アカンサスの学び舎』は完成した。そして今や、生徒諸君が国指定重文の単なる建造物『アカンサスの学び舎』ではなく、名実共に誇り高い『アカンサスの校風』を作り上げようと努めている姿に敬意を表したい。